



学校行事・研究授業を うまく進めるには

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子



秋はやることが
たくさんあるなあ...

どうすれば
うまくいくのだろうか?

始まる前には長く思える夏休みも、実際にはアツという間に終わってしまうのです。新米先生は、英気を養ういとまもなく二学期を迎えてしまうかもしれませんね。

二学期は、スポーツの秋、芸術の秋、学びの秋といわれるように、子どもが一番伸びる時期です。そして、運動会、学習発表会などの学校行事も目白押し。また、学級経営にも慣れ、研究授業をする機会も増えるのではないかと思います。何もかも初めての新米先生にとっては、緊張の連続かもしれません。そこで今回は、そうした学校行事や研究授業にどう臨んだらいいか考えてみたいと思います。

○子ども主体を心がけよう

まず、学校行事です。行事そのものに

目標があるのは当然ですが、学級のまとまりや盛り上がりねらう上でも格好の機会となりうるものです。

そのためにぜひ用心しておきたいことがあります。学校行事はあらかじめ日程や内容などが決められているため、ややもすれば指導者主導になりがち。普段の授業では子どもを生かし、活躍させていても、行事では「ああしなさい、こうしなさい」が多くなり、子どもは「やらされてる」意識になってしまいます。

また、学校行事では、学年で協同歩調をとることが多くなりますが、そうなる自分のクラスの欠点ばかりが目につくようにならないでしょうか。特に新米先生の場合は、先輩の教員の目が気になり、いきおい、どなったりお説教したりすることが増えてしまいます。そうすると子どもは、嫌々やるようになり、表情も暗くなりがちです。

そうならないように、子どもの発想を生かしたり、よい点を目を向けてほめたり認めたりしながら練習するようにしましょう。

○学級をまとめるための指導とは

とはいっても、どうしても叱ったり注意したりしなければならぬ時もあると思います。いくつかの留意点を述べてみましょう。

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

次に、研究授業にふれたいと思います。研究授業は、新米先生もベテラン教員も含む全教職員の共通理解のもと、テーマを設けて行うものです。したがって、自分の授業であっても全教職員の研究に資

○研究授業にはルールがある

たとえば「一組、やり直し」などという言い方はよくありません。なぜなら、同じクラスの中にも、ちゃんとやっている子はいるからです。そういう子の気持ちも考えたいものです。ふざけたりいい加減だったりする子に対しては、やり直させても心の動揺は少ないでしょうが、ちゃんとやっている子にとっては、心の傷となりかねません。「ちゃんとやっている子だっているよね。そういう子にはごめんね。またやり直しをさせてしまつて」というような言葉をかけてやりたいですね。こういう言葉かけは、ふざけたりいい加減だったりする子の心にも響いていくと思います。

このようにして伸びてきたら、「すばらしい。よくそろってきた。これはね、みんなが友達と心を合わせようと努力しているからだよ。だから、学年の輪、学級の輪を感じるよ」というようなほめ方をするとよいでしょう。これはそのまま、学級のまとまりや盛り上がりをねらったほめ方といえます。

また、指導案検討の際の留意点ですが、指導法、学習内容、目標などは、行きつ戻りつするものです。「あら、前に戻っちゃった」ということもあります。そういう時、「なんだ。時間の無駄だったじゃないか」などと思つてはいけません。表現は前に戻つたとしても、その概念は討議を重ねただけ進化（深化）しているはず。研究が深まったのだと思いたいものです。

具体的には、普段していないことを研究授業の時だけやるのはやめましょう。子どもは、普段と様子が違うので緊張してしまいます。事前の研究討議で先輩教員から、「〴〵のようにしたらどうか」などという指導はあると思いますが、それを取り入れるなら、研究授業の前から数回やって慣れさせておくとういでしょう。新米先生も、リラクセスを心がけましょう。先生の緊張は、すぐ子どもに移ってしまいます。

最後に、他のクラスの研究授業を見に行く時には、教室をあげることになるので、子どもには自習の指示を出すと思います。その時、「自習の上手なクラスはいいクラスだよ」などと言って子どもを励ますようにしましょう。

「学びの秋」は、新米先生にも当てはまります。力をつけて教職二年目を迎えられると思います。

